

てらい
寺井地区
(石川県能美市)

- 計 画 期 間 平成 26 年度～令和 2 年度
- 面 積 58.4 h a
- 交付対象事業費 3,102.0 百万円
- 市人口 49,531 人

ポイント

「能美東西連絡道路」や「寺井保育園」の整備を中心としたハード施策と、住民が主体となったソフト施策を展開し、官民一体でまちなかの再生と活性化を図る。

目 標

～ 地域住民の交流から育まれる
寺井まちなかの活性化 ～

指 標

「能美東西連絡道路」整備による他地区とのアクセス強化・交流促進を図り、まちなかの空家活用件数や歩行者数などの増加を目指す。

また、「寺井保育園」整備による当該地区の子育て環境に対する満足度を指標とした。

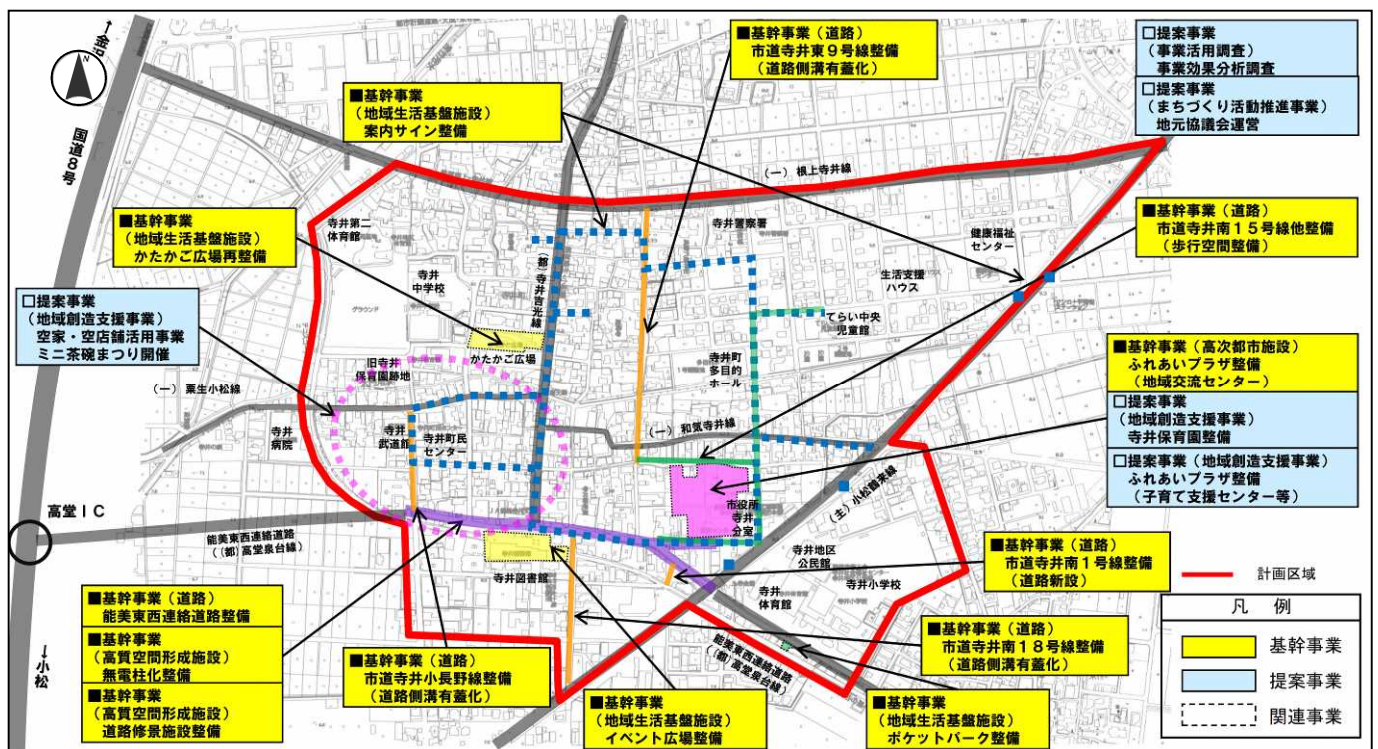
地区概要

寺井地区は、旧北国街道の宿場町として栄えたことで多様な価値観に触れる機会が多く、異質なものを積極的に取り入れる素地が生まれ、時代時代でまちの様子を変えてきた。そのため、九谷焼産地の1つとしてジャパングタニ（貿易九谷）を世界に羽ばたかせ、華やかな中心街を形成したこともあったが、時代の流れによりはかなく消えてしまったこともまた事実である。

空店舗・空家の活用件数	1 件 (H25)	→	6 件 (R3)
商店街の自転車歩行者数	200 人/12h (H25)	→	305 人/12h (R3)
子育て環境に対する満足度	57 % (H25)	→	71 % (R3)

事業内容

- 基幹事業 (2,388.5 百万円) → 能美東西連絡道路整備 (幅員 12.0m、延長 450m)、無電柱化整備、道路修景施設整備、市道整備 (歩行空間整備・道路側溝有蓋化など)、案内サイン整備、ふれあいプラザ整備 (地域交流センター)、かたかご広場再整備、イベント広場整備、ポケットパーク整備
- 提案事業 (713.5 百万円) → 寺井保育園整備、ふれあいプラザ整備 (子育て支援センター等)、空家・空店舗活用事業、ミニ茶碗まつり開催、事業効果分析調査、地元協議会運営



完了地区 石川県

地区の現況と課題

商業機能の低下

寺井地区は、旧北国街道の宿場町として古くから栄えた地域であり、九谷焼産地として歴史ある中心街を形成してきた。しかしながら、近年のモータリゼーションの発展に伴う郊外化などの社会情勢の変化により、商業機能の低下が著しく、空店舗なども目立つ状況となっている。

道路の幅員狭小

寺井地区は、徒歩圏内に保育園、児童館、小学校、中学校、図書館などが立地し、教育・福祉施設が比較的充実しているが、まちなかの道路は幅員狭小で十分な歩道が確保されていないなど、通学・子育て環境の安全性に問題を抱えている。

提案事業の特徴

寺井保育園整備

老朽化が進むとともに耐震性が懸念となっている寺井保育園をまちなかに配置することによって、子育て環境の充実を図る。

ふれあいプラザ整備（子育て支援センター）

寺井保育園の移設とあわせて、子育て環境の充実を図るため、子育て相談や地域の親子の出会いと交流の場として活用される「ふれあいプラザ」を保育園に併設する。

地元協議会運営

住民主体の永続的なまちづくり活動のための母体組織として、寺井中心街活性化協議会「てらかつ協議会」を発足させ、協議会を中心とした地区のまちづくりに対し、支援を行う。

計画策定プロセス

ワークショップの開催

本格的なまちづくりの推進に先駆け、平成25年度に4回のワークショップを開催し、多くの方々からまちづくりに関するご意見をいただき、今後のまちのあり方についてもご提案いただいている。

てらかつ協議会の発足

「てらかつ協議会」は、「てらかつ委員会」と「チームてらかつ」の2つの組織で構成されており、「てらかつ委員会」は意思決定を、「チームてらかつ」はまちづくりの実践を行う。

「チームてらかつ」は約30名の地域住民が参加する複数のチームから成り、「無理をしないで、自分の好きなことを、ちょっとずつ試してみる」といったコンセプトのもと、さまざまな提案・検討・活動を実践し、都市再生整備計画の基幹事業である「能美東西連絡道路整備」の修景デザインなども検討する。



▲ 歩道がなく、かつ混雑するまちなか
また商店数も減少し、夜は街灯のみが明るい



▲ 整備が完了した能美東西連絡道路



▲ 整備が完了した寺井保育園とふれあいプラザ



▲ 協議会のミーティングの様子



▲ 協議会が企画した、空店舗を活用した
ライトアップイベント



▲ 協議会が制作した、まちなか散策マップ